



見てみよう、訪ねてみよう、せとの歴史と文化財



塚原1号墳（発掘調査時）

塚原1号墳（移築後）



歴史文化基本構想推進事業 瀬戸の魅力再発見 **せと 歴史と文化財を知る見学会**
「瀬戸の古墳Ⅰ 塚原古墳群を歩く」

日時：平成31年1月19日（土）

見学コース：①午前10時00分 ②午後1時30分 文化センター北駐車場出発
 （予定時間） 10時15分 1時45分 塚原古墳群到着
 11時15分 2時45分 塚原古墳群出発
 11時30分 3時00分 文化センター北駐車場到着・解散

瀬戸市域の主な指定・登録文化財

やきもの生産の変遷

今回見学する文化財とその関連年表

本地大塚古墳（西本地町2丁目）

宮地古墳（上之山町2丁目）

広久手第30号窯跡
 木造十一面観音菩薩立像（下半田川町）県
 木造阿弥陀如来立像（下半田川町）県

古瀬戸瓶子（寺本町）

陶製狛犬（深川町）国

瀬戸窯跡【小長曾窯跡】（東白坂町）国
 永享年銘梵鐘
 聖徳太子絵伝（塩草町）

定光寺本堂（定光寺町）国
 織田信長制札（窯町）
 菱野郷倉『大般若経』[一部鎌倉]
 瀬戸窯跡【瓶子窯跡】（夙山町）国
 源敬公廟（定光寺町）国
 笠原村・両半田川村国境争論絵図（東松山町）
 石造地藏菩薩立像（片草町）

陶質十六羅漢塑像（寺本町）
 六角陶碑（藤四郎町）
 旧山繁商店（仲切町・深川町）国登
 瀬戸永泉教会礼拝堂建造（杉塚町）国登
 陶製梵鐘（深川町）

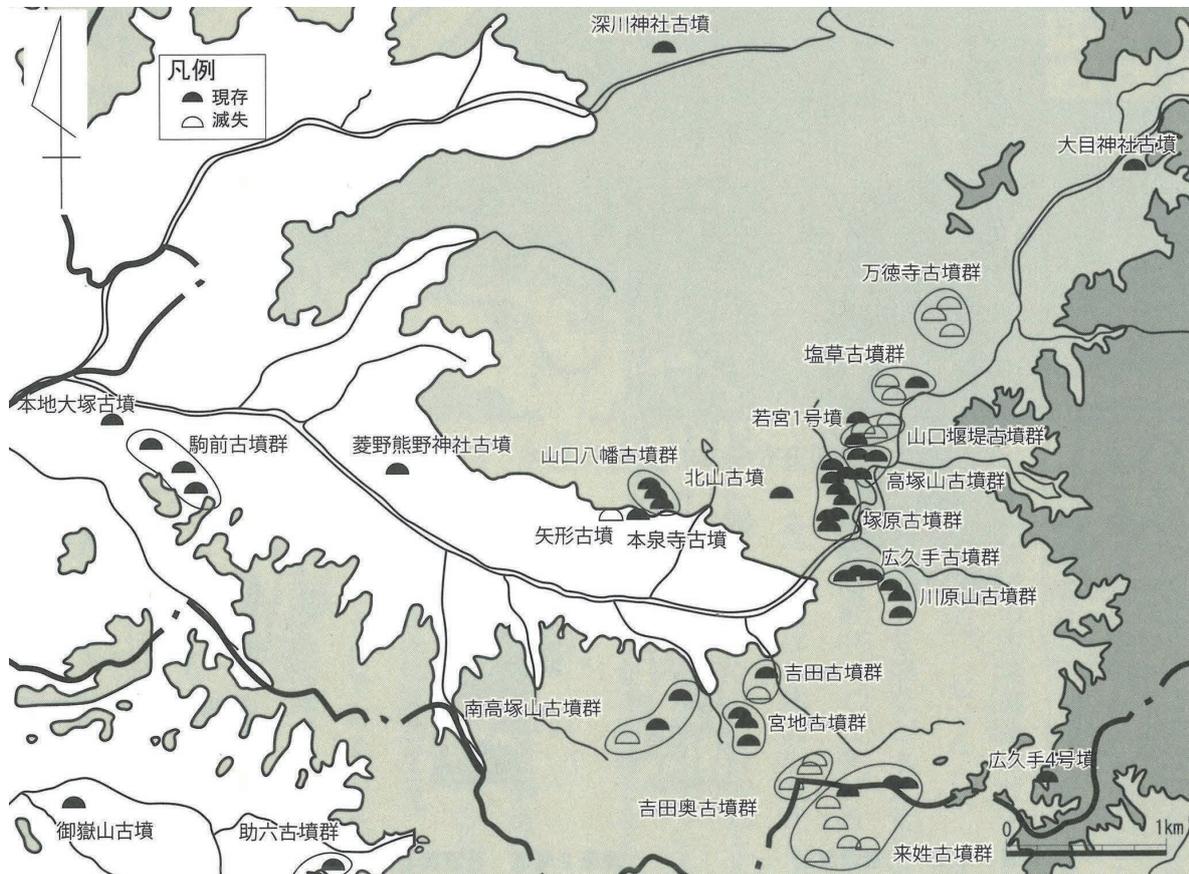
古墳	5世紀	須恵器・ 飛鳥	塚原古墳群造営開始 山口堰堤3号墳造営
	6世紀		
7世紀			
8世紀			
奈良	9世紀	灰釉陶器	
10世紀			
平安	11世紀	山茶碗・ 鎌倉	
	12世紀		
南北朝	13世紀	古瀬戸	
室町	14世紀		
戦国	15世紀	大窯 製品	
	16世紀		
江戸	17世紀	連房 製品	
	18世紀		
近代	19世紀		
	(明治) (大正)		
	(昭和)		
	20世紀		
	21世紀		

瀬戸市の古墳

現在のところ瀬戸市内では 123 基の古墳が見つかっています。古墳は主に丘陵の尾根付近に造られるため、市域中部の水野川北側丘陵や南部の矢田川周辺の丘陵に集中しています。最も古い古墳は市域西端の東谷山にある尾張戸神社古墳で、4 世紀前半代の前方後円墳とされています。その後、しばらくは古墳の築造はみられませんが、5 世紀末に市域西側の矢田川流域に帆立貝式の前方後円墳である本地大塚古墳や方墳である駒前第 1 号墳が築造されています。

6 世紀になると、横穴式石室を埋葬施設とする円墳が水野川や矢田川流域の丘陵内に多数築造されます。横穴式石室は、石を組んで方形の主体部を構築し、羨道を造ることで追葬ができるようにした墓制で、丘陵内に群集して築造されています。矢田川周辺丘陵では、6 世紀前半の高塚山第 1 号墳や吉田奥第 2 号墳が最も古い古墳です。この古墳は通常の横穴式石室とはやや異なった竪穴系横口式という型式の石室で、石室入口に段差を設け、入口を石で塞ぐなど追葬できない形状となっている石室で、北部九州に起源をもち、三河地方で広まった型式の石室です。その後 6 世紀後半から 7 世紀前半では塚原古墳群や山口堰堤古墳群、広久手古墳群など多数の古墳が築造されています。7 世紀前半以降、矢田川周辺丘陵では古墳の数は減少し、7 世紀後半には古墳が築造されなくなっています。

一方、水野川周辺丘陵では、西端にあたる名古屋市守山区志段味地区の東谷山に 6 世紀前半から群集墳の形成が始まり、約 50 基の古墳が確認される尾張地方最大の群集墳となっています。水野地区でも 6 世紀前半に井山古墳、七郎左 3 号墳などが築造されますが、最も多数の古墳が築造されるのは 7 世紀後半となっており、東谷山古墳群衰退後にそのピークを迎えています。水野地区の古墳築造は 8 世紀前半まで継続し、他の地区と比べて遅くまで古墳築造が続いていた地区となっています。



瀬戸市南部の古墳

①塚原第1号墳

塚原古墳群は、瀬戸市南部の幡山地区の東部、標高150m前後の丘陵に立地していました。塚原古墳群の中で最も北に位置していた第1号墳から最も南にある第8号墳までの350mの範囲に、12基の古墳がみつかっています。

塚原第1号墳は、標高が最も高い丘陵頂部に造られていました。昭和41年に石室の発掘調査が行われ、市内でも有数の大きさの横穴式石室をもつ円墳であることがわかりました。墳丘の直径は18m、高さ2.3mで、石室は全長7.3m、最大幅2.3m、高さが1.7mを測ります。平成18年に行われた発掘調査の際には、周辺に天井石として使用されたと考えられる石も確認されました。

石室からは鉄刀、須恵器の蓋杯ふたつき、高杯たかつきなどが出土しました。また、墳丘南側から須恵器の器台きだい、脚付埴きやくつきかんなどが出土しています。須恵器の年代は6世紀後半で、塚原古墳の中で最も早い段階の古墳と推定できます。丘陵の最も高い場所に造営されたことから第1号墳は特別な古墳と考えられています。現在みられる第1号墳は、道路建設の関係により、もともとあった場所から移築されたもので、周囲には天井石の展示もされています。



塚原古墳群 古墳位置図



塚原第1号墳全景（発掘調査時）



塚原第1号墳石室（移築前）



須恵器 器台



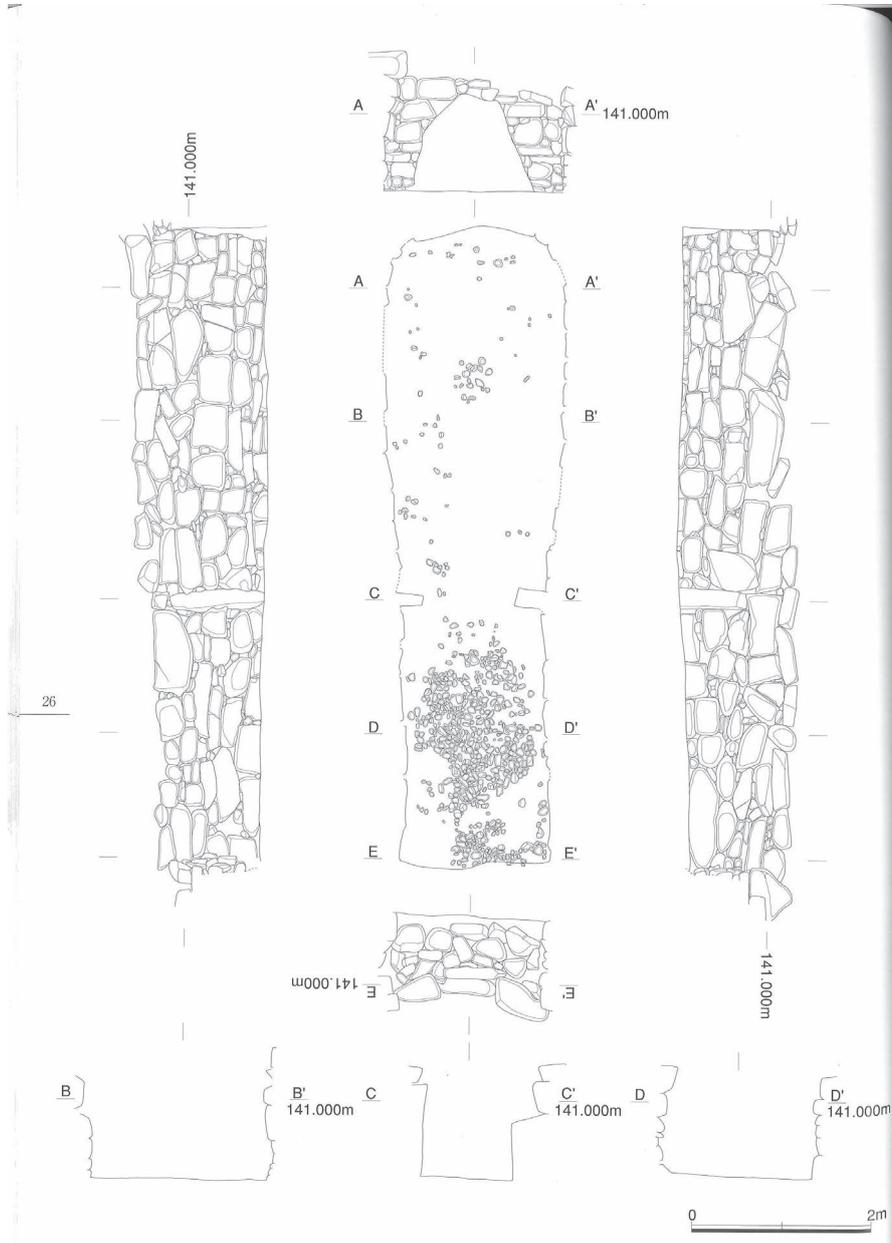
須恵器 脚付埴

②塚原第2号噴

第2号噴は、移築前の第1号噴から南に約50mの位置、標高143mの丘陵の東向き斜面を頂上からやや下った場所に構築されています。墳丘の規模は明らかにされていませんが、残存する石室の全長は7.2m、最大幅2.0mと、第1号噴の石室に次ぐ規模を誇ります。ただし、第1号噴では一つが1mを超える巨石が多用されているのに対し、第2号噴では小型の石材が多用されています。発掘調査が行われておらず、出土遺物がみられないため、この古墳の造営時期は明らかにされていません。



塚原第2号噴石室



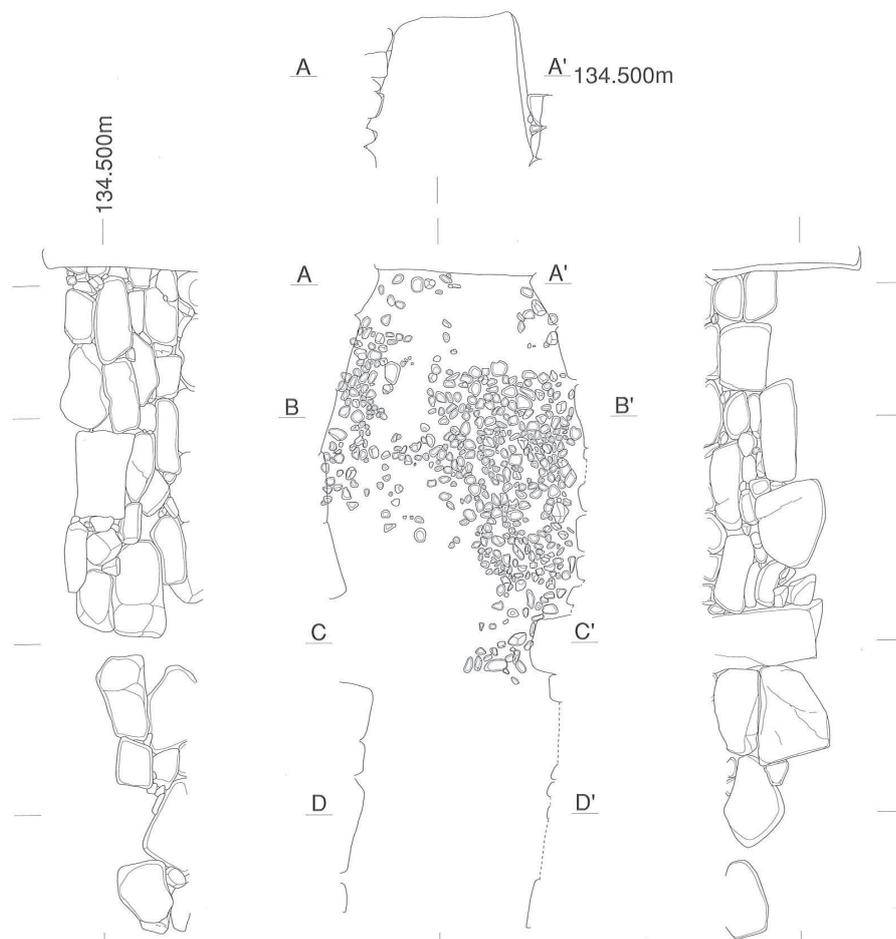
塚原第2号噴石室実測図

③塚原第6号墳

第6号墳は、第2号墳からさらに南に約150mの位置、標高135mの丘陵尾根上に構築されています。墳丘の直径は12m、高さは約1m、石室の全長は4.9m、最大幅2.0mと、第1号墳や第2号墳に比べやや規模が小さい古墳です。また、石室の平面形は中心あたりが横に張り出す特徴的な形状をしています。本古墳からは須恵器が9点、鉄製品が4点、金属製品が4点出土しており、須恵器の年代から、7世紀中頃の造営と考えられています。



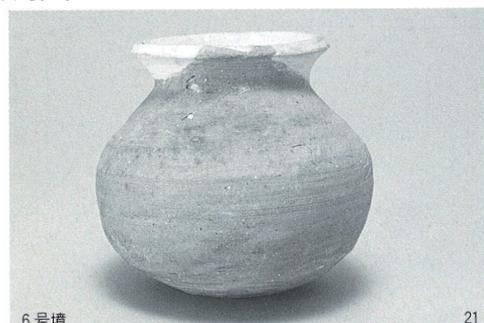
塚原第6号墳石室



塚原第6号墳石室実測図



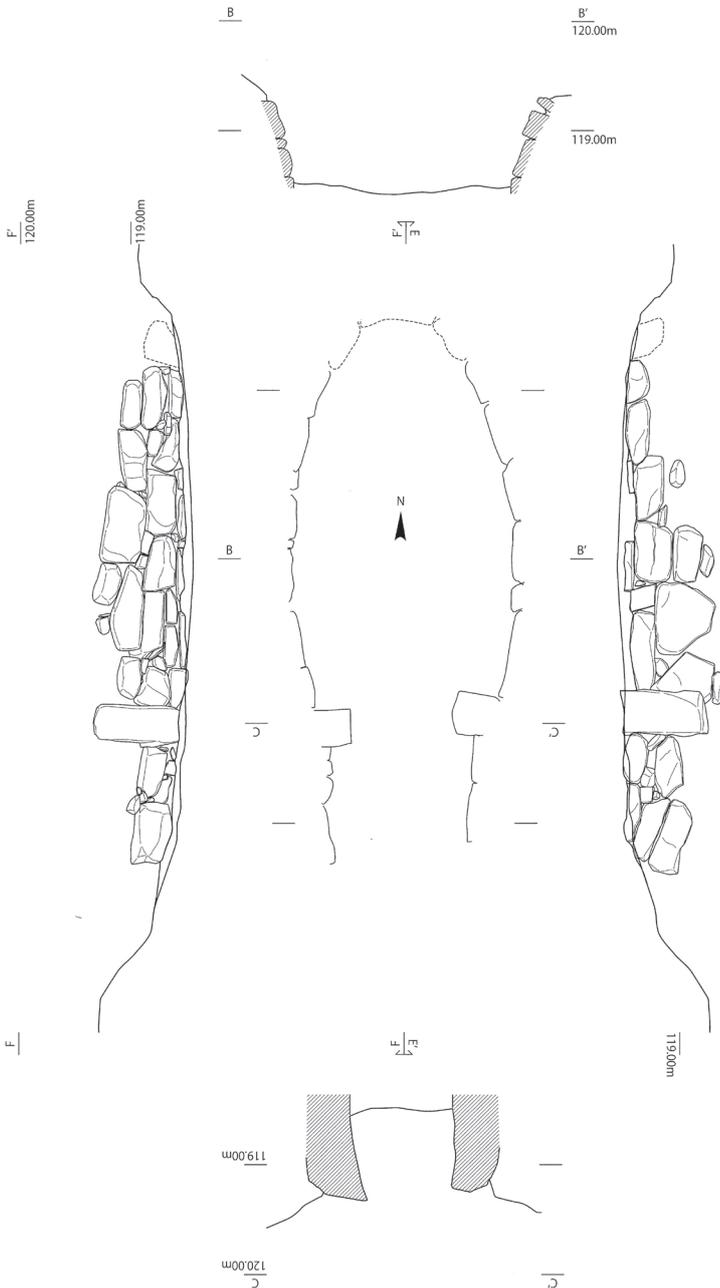
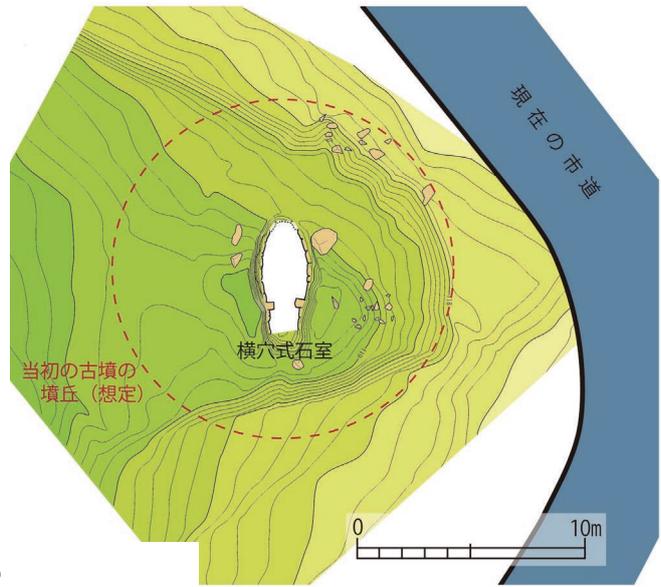
須恵器 高杯



須恵器 短頸壺

④山口堰堤第3号墳

山口堰堤第3号墳は、墳丘の直径が15mの円墳で、全長4.9mの横穴式石室が現在もみることができます。出土した遺物から、塚原第1号墳より少し後の6世紀末に造営されたと考えられています。



山口堰堤第3号墳石室

山口堰堤第3号墳石室実測図

まだまだあります瀬戸の古墳

本地大塚古墳（西本地町1丁目）

市内で唯一確認される前方後円墳です。墳丘の全長が30.8mで、前方部が後円部に対して短く張り出す形状から、「帆立貝式」とも呼ばれます。須恵器をはじめ、円筒形埴輪や鳥や人物の形を模した形象埴輪が出土しており、それらの年代から6世紀初め頃に造営されたと考えられます。



吉田第2号墳（上之山町2丁目）

6世紀には瀬戸市域の山口地区や水野地区などに多く古墳がみられるようになります。古墳には被葬者を安置する石室を築きますが、山口地区では、「竪穴系横口式石室」という構造のものがみられます。これは、竪穴式形態の石室に横口状の短い入り口が伴う、三河地域に多くみられる特徴的な構造です。この構造をもつ吉田第2号墳は、右側のみに石室中央が広がる「片袖式」のものであります。現在は、サンヒル上之山の南東端に移築復元されています。管玉・ガラス小玉などの出土品は瀬戸蔵ミュージアムで展示されています。



穴田第2号墳（尾張旭市大字新居（現在地））

現在穴田企業団地に所在している穴田古墳群の中でも最も古い穴田第2号墳は、7.15mの横穴式石室をもつ円墳でした。石室は、右側に幅が広がる片袖式で、近畿地方のものに類似した畿内型横穴式石室と呼ばれています。昭和44年の発掘調査後に、愛知県森林公園内の北門近くに移築復元されました。滅失していた天井石も移築時に復元され、開園時には自由に見学することができます。



穴田第4号墳（穴田町）

品野盆地から水野盆地にかけての水野川流域に古墳がみられますが、丘陵部の穴田町周辺にも11基の横穴式石室をもつ古墳が確認されています。昭和44年より行われた企業団地造成に伴い、多くの古墳は記録保存のための発掘調査が行われました。現在残っている古墳は少ないのですが、直径約14mの円墳である穴田4号墳は、現地で保存されました。全長7.3mの石室は、側壁左右の立柱石を挟んで、奥の玄室と手前の羨道に分かれており、死者を葬る玄室は奥壁左右の隅がやや狭く、胴張形の平面形をしています。



今後のスケジュール

<3月>

せと歴！ 瀬戸の古墳Ⅱ 東谷山と水野の古墳を歩く

日 時：3月9日（土） 午後1時～午後4時00分

集合・解散場所：瀬戸市文化センター 北駐車場 ※東谷麓までマイクロバスで移動します。

内 容：東海地方最古級の尾張戸神社古墳・中社古墳や、横穴式石室が当時のまま残されている荏坪古墳を解説付きで巡ります。

参加費：無料

★定員 27 名に達し次第受付を終了します。詳しくは広報せと 2 月 1 日号に掲載します。

瀬戸市歴史文化基本構想ホームページ

昨年度、策定した瀬戸市歴史文化基本構想や基本構想に関連した取り組みをホームページにて掲載しています。

これまでに開催した「まちめぐり」や「学び塾」の様子を紹介するとともに、「まちめぐり」の資料をダウンロードすることができます。

アドレス：<http://seto-guide.jp/>

ぜひ、ご覧ください。



本事業は、平成30年度歴史文化基本構想を活用した観光拠点づくり事業（文化芸術振興費補助金）を活用して実施しています。

主催：瀬戸市歴史文化基本構想を活用した観光拠点形成のための協議会（瀬戸市地域振興部文化課）